

# 北琉球奄美語与論島方言の対格標識=NcjaN と 他動詞目的語名詞 (句) の性格

---

宮川 創 (みやがわ そう)

so-miyagawa@ninjal.ac.jp

2022 年 12 月 4 日 (ver. 2022/12/04)

国立国語研究所研究系テニュアトラック助教

## 目次

- ① はじめに
- ② 先行研究
- ③ 目的と方法
- ④ 結果と考察
- ⑤ 結論

本発表は、2022年11月12日の日本言語学会での発表に、2022年11月28日-12月1日に行った与論島での調査を加筆したものです。調査にご協力いただいた、与論民俗村の菊秀史様に感謝申し上げます。

はじめに

---

## 概要：RQ (Rsearch Question)

- 問題 RQ ①：先行研究が述べるように動詞の直前以外の位置では与論島方言の対格標識 =NcjaN は義務的で直前なら義務的ではないが、これは本当か
- 問題 RQ ②：目的語が動詞の直前である場合、対格標識のある/なしは何がトリガーになっているか
- 問題 RQ ③：この与論島方言の対格標識は何が起源か
- ⇒ 『与論のしまがたり』をコーパスとして使用し、分析する

## 概要：RQ (Research Question)

- 問題 RQ ①：先行研究が述べるように動詞の直前以外の位置では与論島方言の対格標識 =NcjaN は義務的で直前なら義務的ではないが、これは本当か
- 問題 RQ ②：目的語が動詞の直前である場合、対格標識のある/なしは何がトリガーになっているか
- 問題 RQ ③：この与論島方言の対格標識は何が起源か
- ⇒ 『与論のしまがたり』をコーパスとして使用し、分析する

## 概要：RQ (Research Question)

- 問題 RQ ①：先行研究が述べるように動詞の直前以外の位置では与論島方言の対格標識 =NcjaN は義務的で直前なら義務的ではないが、これは本当か
- 問題 RQ ②：目的語が動詞の直前である場合、対格標識のある/なしは何がトリガーになっているか
- 問題 RQ ③：この与論島方言の対格標識は何が起源か
- ⇒ 『与論のしまがたり』をコーパスとして使用し、分析する

## 概要：RQ (Rsearch Question)

- 問題 RQ ①：先行研究が述べるように動詞の直前以外の位置では与論島方言の対格標識 =NcjaN は義務的で直前なら義務的ではないが、これは本当か
- 問題 RQ ②：目的語が動詞の直前である場合、対格標識のある/なしは何がトリガーになっているか
- 問題 RQ ③：この与論島方言の対格標識は何が起源か
- ⇒ 『与論のしまがたり』をコーパスとして使用し、分析する

## 概要：RQ (Rsearch Question)

- 問題 RQ ①：先行研究が述べるように動詞の直前以外の位置では与論島方言の対格標識 =NcjaN は義務的で直前なら義務的ではないが、これは本当か
- 問題 RQ ②：目的語が動詞の直前である場合、対格標識のある/なしは何がトリガーになっているか
- 問題 RQ ③：この与論島方言の対格標識は何が起源か
- ⇒ 『与論のしまがたり』をコーパスとして使用し、分析する



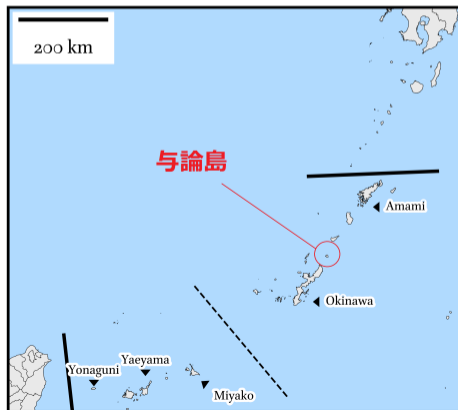
## 与論島方言の地理的特徴

与論島で話されている与論島方言は、沖永良部島方言や沖縄北部方言など、有標主格 (marked nominative) の言語に囲まれている (地図：加藤幹治氏提供)



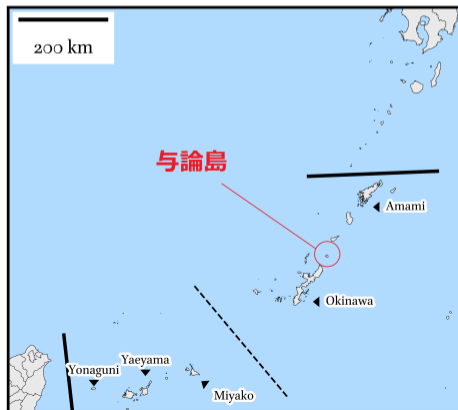
## 与論島方言の地理的特徴

与論島で話されている与論島方言は、沖永良部島方言や沖縄北部方言など、有標主格 (marked nominative) の言語に囲まれている (地図：加藤幹治氏提供)



## 与論島方言の地理的特徴

与論島で話されている与論島方言は、沖永良部島方言や沖縄北部方言など、有標主格 (marked nominative) の言語に囲まれている (地図：加藤幹治氏提供)



## 有標主格 (marked nominative) とは

- 自動詞主語 (S) と他動詞主語 (A) が音を有する同じ形式で標示されるが、他動詞目的語 (O) は標示されない (ゼロ形式で標示される) 言語類型
- 主格・対格型の数多くの言語は、どちらかの格が無標である場合、主格が無標になるため、有標主格は類型論的に珍しい
- アフリカ大陸中央東部・メラネシア東部・北アメリカ大陸中央西部といった地理的に非常に限られた地域で固まって見られることが特徴である (Handschuh 2014: 13)
- 下地 (2015) により奄美・沖縄から成る北琉球も珍しい有標主格型言語が多い地域の 1 つであることが指摘

## 有標主格 (marked nominative) とは

- 自動詞主語 (S) と他動詞主語 (A) が音を有する同じ形式で標示されるが、他動詞目的語 (O) は標示されない (ゼロ形式で標示される) 言語類型
- 主格・対格型の数多くの言語は、どちらかの格が無標である場合、主格が無標になるため、有標主格は類型論的に珍しい
- アフリカ大陸中央東部・メラネシア東部・北アメリカ大陸中央西部といった地理的に非常に限られた地域で固まって見られることが特徴である (Handschuh 2014: 13)
- 下地 (2015) により奄美・沖縄から成る北琉球も珍しい有標主格型言語が多い地域の1つであることが指摘

## 有標主格 (marked nominative) とは

- 自動詞主語 (S) と他動詞主語 (A) が音を有する同じ形式で標示されるが、他動詞目的語 (O) は標示されない (ゼロ形式で標示される) 言語類型
- 主格・対格型の数多くの言語は、どちらかの格が無標である場合、主格が無標になるため、有標主格は類型論的に珍しい
- アフリカ大陸中央東部・メラネシア東部・北アメリカ大陸中央西部といった地理的に非常に限られた地域で固まって見られることが特徴である (Handschuh 2014: 13)
- 下地 (2015) により奄美・沖縄から成る北琉球も珍しい有標主格型言語が多い地域の1つであることが指摘

## 有標主格 (marked nominative) とは

- 自動詞主語 (S) と他動詞主語 (A) が音を有する同じ形式で標示されるが、他動詞目的語 (O) は標示されない (ゼロ形式で標示される) 言語類型
- 主格・対格型の数多くの言語は、どちらかの格が無標である場合、主格が無標になるため、有標主格は類型論的に珍しい
- アフリカ大陸中央東部・メラネシア東部・北アメリカ大陸中央西部といった地理的に非常に限られた地域で固まって見られることが特徴である (Handschuh 2014: 13)
- 下地 (2015) により奄美・沖縄から成る北琉球も珍しい有標主格型言語が多い地域の1つであることが指摘

## 有標主格 (marked nominative) とは

- 自動詞主語 (S) と他動詞主語 (A) が音を有する同じ形式で標示されるが、他動詞目的語 (O) は標示されない (ゼロ形式で標示される) 言語類型
- 主格・対格型の数多くの言語は、どちらかの格が無標である場合、主格が無標になるため、有標主格は類型論的に珍しい
- アフリカ大陸中央東部・メラネシア東部・北アメリカ大陸中央西部といった地理的に非常に限られた地域で固まって見られることが特徴である (Hands Schuh 2014: 13)
- 下地 (2015) により奄美・沖縄から成る北琉球も珍しい有標主格型言語が多い地域の1つであることが指摘



## 有標主格型言語の例：沖永良部島方言

- (1) 北琉球沖永良部島国頭方言 (横山 2017: 120)

seNsee=ga ucja abit-ut-a-N=doo

seNsee=ga ucja abi-u-a-N=doo

先生=NOM 2PL 呼ぶ-CONT-PST-IND=SFP

「先生があんた達を呼んでいたよ」

## 有標主格型言語の例：伊平屋方言

- (2) 北琉球沖縄伊平屋島方言 (Carlino 2020: 84)

tarooga omoča koočan

taroo=ga omoča koos-ta-m

太郎=NOM おもちゃ 壊す-PST-IND

「太郎がおもちゃを壊した」

## 与論島方言の対格標識の存在

- 他動詞主語 (沖永良部 seNsee、伊平屋 taroo) には有標主格 (沖永良部・伊平屋 =ga)、目的語 (沖永良部 ucja、伊平屋 omoča) には無標対格
- 与論島方言は、例文 (1a・1b) のような有標主格・無標対格型の言語に囲まれていながら、有標主格・有標対格

与論島方言は、有標主格型ではない

## 与論島方言の対格標識の存在

- 他動詞主語 (沖永良部 seNsee、伊平屋 taroo) には有標主格 (沖永良部・伊平屋 =ga)、目的語 (沖永良部 ucja、伊平屋 omoča) には無標対格
- 与論島方言は、例文 (1a・1b) のような有標主格・無標対格型の言語に囲まれていながら、有標主格・有標対格

与論島方言は、有標主格型ではない

## 与論島方言の対格標識の存在

- 他動詞主語 (沖永良部 seNsee、伊平屋 taroo) には有標主格 (沖永良部・伊平屋 =ga)、目的語 (沖永良部 ucja、伊平屋 omoča) には無標対格
- 与論島方言は、例文 (1a・1b) のような有標主格・無標対格型の言語に囲まれていながら、有標主格・有標対格

与論島方言は、有標主格型ではない

## 与論島方言対格標識=NcjaN

- 日本語諸方言の対格標識 =(w)o や宮古語の =u などの対格標識と非対応
- 九州の幾つかの方言や奄美語の幾つかの方言における対格標識 =ba (例：日本語九州柳川方言：松岡 2020: 82、北琉球奄美大島龍郷町浦方言：重野 2016: 84–85) とも非対応
- 先行研究によれば、=NcjaN は、目的語との距離で出現できるかできないかが決まるといふ、=wo や =ba にはない特徴を持つ

## 与論島方言対格標識=NcjaN

- 日本語諸方言の対格標識 =(w)o や宮古語の =u などの対格標識と非対応
- 九州の幾つかの方言や奄美語の幾つかの方言における対格標識 =ba (例：日本語九州柳川方言：松岡 2020: 82、北琉球奄美大島龍郷町浦方言：重野 2016: 84–85) とも非対応
- 先行研究によれば、=NcjaN は、目的語との距離で出現できるかできないかが決まるといふ、=wo や =ba にはない特徴を持つ

## 与論島方言対格標識=NcjaN

- 日本語諸方言の対格標識 =(w)o や宮古語の =u などの対格標識と非対応
- 九州の幾つかの方言や奄美語の幾つかの方言における対格標識 =ba (例：日本語九州柳川方言：松岡 2020: 82、北琉球奄美大島龍郷町浦方言：重野 2016: 84–85) とも非対応
- 先行研究によれば、=NcjaN は、目的語との距離で出現できるかできないかが決まるといふ、=wo や =ba にはない特徴を持つ



## 与論島方言対格標識=NcjaN

- 日本語諸方言の対格標識 =(w)o や宮古語の =u などの対格標識と非対応
- 九州の幾つかの方言や奄美語の幾つかの方言における対格標識 =ba (例：日本語九州柳川方言：松岡 2020: 82、北琉球奄美大島龍郷町浦方言：重野 2016: 84–85) とも非対応
- 先行研究によれば、=NcjaN は、目的語との距離で出現できるかできないかが決まるといふ、=wo や =ba にはない特徴を持つ

## 先行研究

---

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ) ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは (イ) ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ)ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは(イ)ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ) ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは (イ) ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ) ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは (イ) ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ) ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは (イ) ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる

## 先行研究 1: 与論島方言麦屋地区の文法書: 菊 (2014: 174–177)

- 「(イ) ンチャン」の意味は日本語の「を」
- 「ただし「を」と動詞の間に文節が入るときは (イ) ンチャンは省略できません。」
- 菊 (2014: 175–177): 「ンチャン」の異形態とその他の形式 「インチャン」「ンチャナ」「インチャナ」「ンチャー」「インチャー」
- 「ンチャン」は、起点を表わす格標識である「カラ」、トピック標識である「ヤ」、添加の「も」に対応する「イン」、限定・程度の「ばかり」に対応する「バツカイ」など、日本語文法では格助詞や副助詞と言われるような他の標識をその後に取りることができる



## 先行研究 2: Tohyama & Seraku (2016: 76–77)

- 動詞の直前以外、すなわち動詞から離れた位置にある目的語は、必ず =NcjaN によって他動詞目的語を標示しなければならない
- 他動詞の直前では、他動詞目的語標識である =NcjaN は省略可
- Tohyama & Seraku (2016: 77) は例文 (3a・3b) を用いて、=NcjaN が、動詞との位置関係によって、義務的になるか省略可能であることを示す
- Seraku & Tohyama (2018) も対格標識 =NcjaN の出現規則に関してはこの説を踏襲

## 先行研究 2: Tohyama & Seraku (2016: 76–77)

- 動詞の直前以外、すなわち動詞から離れた位置にある目的語は、必ず =NcjaN によって他動詞目的語を標示しなければならない
- 他動詞の直前では、他動詞目的語標識である =NcjaN は省略可
- Tohyama & Seraku (2016: 77) は例文 (3a・3b) を用いて、=NcjaN が、動詞との位置関係によって、義務的になるか省略可能であることを示す
- Seraku & Tohyama (2018) も対格標識 =NcjaN の出現規則に関してはこの説を踏襲

## 先行研究 2: Tohyama & Seraku (2016: 76–77)

- 動詞の直前以外、すなわち動詞から離れた位置にある目的語は、必ず =NcjaN によって他動詞目的語を標示しなければならない
- 他動詞の直前では、他動詞目的語標識である =NcjaN は省略可
- Tohyama & Seraku (2016: 77) は例文 (3a・3b) を用いて、=NcjaN が、動詞との位置関係によって、義務的になるか省略可能であることを示す
- Seraku & Tohyama (2018) も対格標識 =NcjaN の出現規則に関してはこの説を踏襲

## 先行研究 2: Tohyama & Seraku (2016: 76–77)

- 動詞の直前以外、すなわち動詞から離れた位置にある目的語は、必ず =NcjaN によって他動詞目的語を標示しなければならない
- 他動詞の直前では、他動詞目的語標識である =NcjaN は省略可
- Tohyama & Seraku (2016: 77) は例文 (3a・3b) を用いて、=NcjaN が、動詞との位置関係によって、義務的になるか省略可能であることを示す
- Seraku & Tohyama (2018) も対格標識 =NcjaN の出現規則に関してはこの説を踏襲

## 先行研究 2: Tohyama & Seraku (2016: 76–77)

- 動詞の直前以外、すなわち動詞から離れた位置にある目的語は、必ず =NcjaN によって他動詞目的語を標示しなければならない
- 他動詞の直前では、他動詞目的語標識である =NcjaN は省略可
- Tohyama & Seraku (2016: 77) は例文 (3a・3b) を用いて、=NcjaN が、動詞との位置関係によって、義務的になるか省略可能であることを示す
- Seraku & Tohyama (2018) も対格標識 =NcjaN の出現規則に関してはこの説を踏襲

## 与論島方言対格標識を用いた例文 (Tohyama &amp; Seraku 2016: 77)

- (3) a. 与論島方言：目的語が動詞の直前であれば=NcjaN は省略可能

keN=ga cjina(=NcjaN) ki-cha-N

ケン=NOM1 縄 (=ACC) 切る-PST-IND

「ケンが縄を切った」

- b. 与論島方言：目的語が動詞の直前になければ=NcjaN は義務

cjina=NcjaN(\*=∅) keN=ga ki-cha-N

縄=ACC ケン=NOM1 切る-PST-IND

「ケンが縄を切った」

## 先行研究 3: 菊・高橋 (2005: 640): 与論島麦屋地区方言辞典

「ンチャン ncjaN」という「副助詞」が記載されており、「①動作、作用の対象となる物事を表わす。[...] ②経過する場所、時間を表わす。[...] ③出発、分離する起点を表わす。」

## 先行研究 4: 山田 (1995: 2069)

与論島には、麦屋以外にも、茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城といった地区があるが、このうち茶花方言の辞書である 山田 (1995: 2069) では、「-ンチャア -ntʃaa」という「助詞」が記載され、意味を「・・・をば」とし、「麦屋では-ンチャンで用いている。」と書かれている



## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mi:mut\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mi:mut\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mi:mut\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mi:m\mu t\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mi:mut\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 先行研究 5: 国立国語研究所基幹型共同研究プロジェクト 2012 年各集落調査

- 「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」チームは、2012 年 12 月に与論島の各集落 (茶花、立長、朝戸、古里、那間、叶、城、麦屋西区、麦屋東区) で方言調査を行い、同じ意味の例文を方言でどう訳すか各集落で聞き取り
- それらの例文のうち、他動詞と対格目的語があるいくつかの例文で「ンチャン」あるいは「ンチャー」の形式が表れている
- 例えば、30 番の例文は、「次郎、この荷物を家までかついで行ってくれ。」という例文である
- この例文において、目的語の「荷物を」は、茶花・立長では  $jimot\zeta unt\zeta a:$ 、古里・那間・叶では  $jimotsunt\zeta a$ 、朝戸・城では、 $mizmut\zeta int\zeta a:$ 、麦屋西区では、 $jimotsunt\zeta a:$ 、麦屋東区では  $jimotsunt\zeta a:na$  と、対格標識が付された形で訳されている (国立国語研究所 2006: 121)
- 同報告書において、「与論方言の文法」について報告している町 (2006: 71–74) では、 $=(i)NcjaN$  /  $=(i)Ncjaa$  に相当する助詞については触れられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない



## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

## 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 対格標識 =NcjaN の性質

- この対格標識は、動詞との位置関係によって義務的になったり、省略可能になったりする
- この対格標識が省略可能になる場合は、動詞の直前である

### 示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM)

- 対格が有標であっても、対格がある条件下では無標もしくは別形式になる言語は、示差的目的語標示 (Differential Object Marking: DOM) 型言語と呼ばれる (Aissen 2003)
- 言語類型論の分野で異なる目的語標示の原因について様々な研究がある
- 定性 (definiteness) が影響する例 (現代ヘブライ語の対格標識 et など)
- 目的語の有生性 (animacy) の度合いが影響する例 (スペイン語の前置詞 a など)

与論島方言も、動詞の直前に限っては、目的語標識が省略できる、言い換えれば、有標にも無標にもなるため、示差的目的語標示型言語といえるが、先行研究では、示差的目的語標示の要因は述べられていない

## 目的と方法

---

## 目的

- =NcjaN が動詞の直前では省略可能で、それ以外では義務的であるとしている先行研究（菊 2014、Tohyama & Seraku 2016）では、データのインフォーマントは与論島の麦屋地区の二人の話者に限定
- ∴ 様々な年齢の、より多くの話者のデータでも調べる必要



## 目的

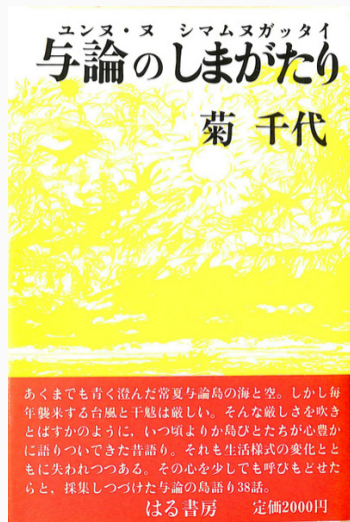
- =NcjaN が動詞の直前では省略可能で、それ以外では義務的であるとしている先行研究（菊 2014、Tohyama & Seraku 2016）では、データのインフォーマントは与論島の麦屋地区の二人の話者に限定
- ∴ 様々な年齢の、より多くの話者のデータでも調べる必要

## 目的

- =NcjaN が動詞の直前では省略可能で、それ以外では義務的であるとしている先行研究（菊 2014、Tohyama & Seraku 2016）では、データのインフォーマントは与論島の麦屋地区の二人の話者に限定
- ∴ 様々な年齢の、より多くの話者のデータでも調べる必要

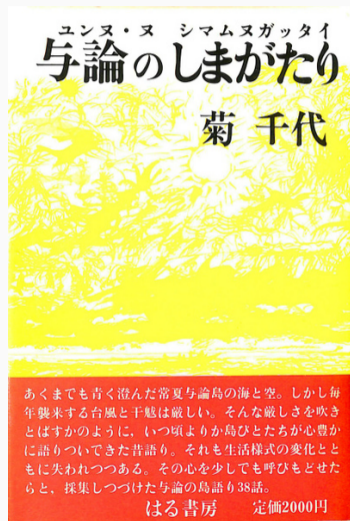
## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録



## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録



## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録



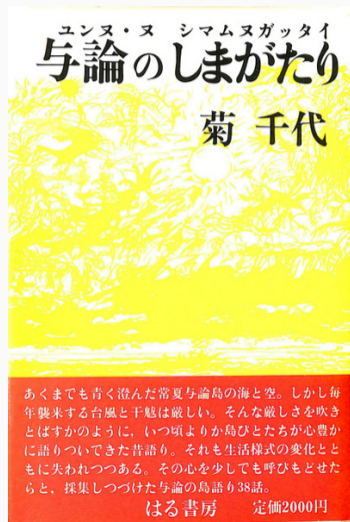
## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録



## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録



## 『与論のしまがたり』(菊 1985)

- RQ1 と RQ2 に関して、さらに詳細に調べるために、『与論のしまがたり』(ユンヌ・ヌ シマムヌガッタイ; 菊 1985) という書籍をコーパス化
  - ▶ 菊千代氏によって収集された、与論島方言での民話集
  - ▶ はる書房(東京)から、1985年7月30日に初版第1刷が発行、総314頁
  - ▶ 与論島方言の民話には、日本語共通語で、行間に語釈
  - ▶ 明治28年から大正13年生まれの話者11人による38の昔話(しまがたり)が収録





## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

### 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。|

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。|

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 『与論のしまがたり』のコーパス化

- 国立国会図書館のNDL OCRによるデジタルテキスト化
- 「ンチャン」・「ンチャー」などの形式の検索・書き出し
- さらに、集中的に1週間程度の時間をかけて精読・無標の目的語の書き出し
- 総314頁から有標・無標どちらも含む全ての目的語と他動詞と前後文脈を抜き出しスプレッドシートに
- その他、対格標識の有無とその種類、他動詞、前文脈、後文脈、目的語の有生性、目的語の定性もスプレッドシートに記入
- 目的語の有生性と定性も指標に入れたのは、多くの示差的目的語標示型言語が、有生性あるいは定性をその異なる標示の要因としているため

## 2. OCRテキスト化の対象資料

令和2年12月時点で当館が国立国会図書館デジタルコレクション上で提供を行っていた図書・雑誌等資料、約247万点(約2.2億画像)です。

対象資料の詳細な内訳は下表のとおりです。

コレクション名称	資料概数(点)	画像数
雑誌	1,320,000	72,462,853
図書	973,000	137,728,493
博士論文	149,000	12,449,873
官報	21,000	387,962
録音・映像関係資料-脚本	3,000	137,138
地図	600	566
特殊デジタルコレクション-帝国図書館文書	200	27,838
(合計)	2,466,300	223,194,723

[https://lab.ndl.go.jp/data\\_set/ocr/r3\\_line/](https://lab.ndl.go.jp/data_set/ocr/r3_line/)

## 結果と考察

---



## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

## 結果

- 『与論のしまがたり』中の目的語は、対格が無標の場合と有標の場合があり、有標の対格標識ものは、「ンチャン」と「ンチャー」と「インチャン」の3種類
- 「ンチャン」と「ンチャー」には「ヤ」というトピック標識がつくものがあった
- 表(1)に、動詞との距離と対格標識の有無と種類の頻度を示す
- なお、本書では「私を」を意味するなど、「ンチャン」が1人称代名詞「ワ」に続くときに中黒なしで書かれる場合があったが、それは「ワ・ンチャン」と解釈した
- また、中黒が、「ワ・ン・チャン」となりながら、語釈では「ン・チャン」に対して「を」と書かれている場合もごく少数あったが、それらは誤植であると解釈し「ンチャン」に計上した

動詞との距離 (文節単位)	無標 =∅ =ACC	ンチャン =NcjaN =ACC	ンチャン・ヤ =NcjaN=ja =ACC=TOP	ンチャー =Ncjaa =ACC	ンチャー・ヤ =Ncjaa=ja =ACC=TOP	インチャン =iNcjaN =ACC
1	536	30	0	3	0	3
2	17	15	2	0	2	0
3	8	6	1	0	0	0
4	3	0	0	0	0	0
5	0	1	0	0	0	0

Table 1: 『与論のしまがたり』に出現した対格標識、および、目的語の動詞との距離



## 考察

- 表 1 のように、目的語が動詞の直前にない場合でも、=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa なしで、無標で目的語をマークする場合は 28 例
- この 28 例のうち、16 例がトピック標識である=ja 「は」が目的語に付され、1 例が添加の標識である=iN 「も」が目的語に付されていた
- これらを除外すると、11 例が、他の副助詞なしの全くの無標の目的語が動詞から離れている例となる
- 目的語が無標になる場合は、表 (1) のデータから、動詞の直前がほとんどだが、先行研究とは異なり、今回の調査によって、動詞よりも 2 文節以上離れている目的語が無標である例も存在

## 考察

- 表 1 のように、目的語が動詞の直前にない場合でも、=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa なしで、無標で目的語をマークする場合は 28 例
- この 28 例のうち、16 例がトピック標識である=ja 「は」が目的語に付され、1 例が添加の標識である=iN 「も」が目的語に付されていた
- これらを除外すると、11 例が、他の副助詞なしの全くの無標の目的語が動詞から離れている例となる
- 目的語が無標になる場合は、表 (1) のデータから、動詞の直前がほとんどだが、先行研究とは異なり、今回の調査によって、動詞よりも 2 文節以上離れている目的語が無標である例も存在

## 考察

- 表 1 のように、目的語が動詞の直前にない場合でも、=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa なしで、無標で目的語をマークする場合は 28 例
- この 28 例のうち、16 例がトピック標識である=ja 「は」が目的語に付され、1 例が添加の標識である=iN 「も」が目的語に付されていた
- これらを除外すると、11 例が、他の副助詞なしの全くの無標の目的語が動詞から離れている例となる
- 目的語が無標になる場合は、表 (1) のデータから、動詞の直前がほとんどだが、先行研究とは異なり、今回の調査によって、動詞よりも 2 文節以上離れている目的語が無標である例も存在

## 考察

- 表 1 のように、目的語が動詞の直前にない場合でも、=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa なしで、無標で目的語をマークする場合は 28 例
- この 28 例のうち、16 例がトピック標識である=ja 「は」が目的語に付され、1 例が添加の標識である=iN 「も」が目的語に付されていた
- これらを除外すると、11 例が、他の副助詞なしの全くの無標の目的語が動詞から離れている例となる
- 目的語が無標になる場合は、表 (1) のデータから、動詞の直前がほとんどだが、先行研究とは異なり、今回の調査によって、動詞よりも 2 文節以上離れている目的語が無標である例も存在

## 考察

- 表 1 のように、目的語が動詞の直前にない場合でも、=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa なしで、無標で目的語をマークする場合は 28 例
- この 28 例のうち、16 例がトピック標識である=ja 「は」が目的語に付され、1 例が添加の標識である=iN 「も」が目的語に付されていた
- これらを除外すると、11 例が、他の副助詞なしの全くの無標の目的語が動詞から離れている例となる
- 目的語が無標になる場合は、表 (1) のデータから、動詞の直前がほとんどだが、先行研究とは異なり、今回の調査によって、動詞よりも 2 文節以上離れている目的語が無標である例も存在

## RQ1 への回答: 動詞直前以外でも無標対格の目的語は存在する

- 日本語共通語では =wo=wa と、対格標識とトピック標識を組み合わせることができないのに対して、与論島方言では、菊 (2014) によれば、=(i)NcjaN(a) / =(i)Ncjaa にも、トピック標識=ja を付すこともでき、実際に『与論のしまがたり』のなかで、=NcjaN=ja と =Ncjaa=ja の例がそれぞれ 3 例と 2 例存在
- 対格標識にトピック標識を後接することができるならば、目的語にトピック標識がついていても、それが動詞から 2 文節以上離れている場合、有標対格の =NcjaN=ja あるいは =Ncjaa=ja となることもできるはず
- ∴ 動詞直前以外において目的語がトピック標識を持つが対格標識を持たない 16 例を除外するべきではない
- このように、動詞直前以外の位置でも無標対格の目的語は存在するかという RQ1 に関しては、今回のコーパス分析ではそれが存在することがわかった

## RQ1 への回答: 動詞直前以外でも無標対格の目的語は存在する

- 日本語共通語では =wo=wa と、対格標識とトピック標識を組み合わせることができないのに対して、与論島方言では、菊 (2014) によれば、=(i)NcjaN(a) / =(i)Ncjaa にも、トピック標識=ja を付すこともでき、実際に『与論のしまがたり』のなかで、=NcjaN=ja と =Ncjaa=ja の例がそれぞれ 3 例と 2 例存在
- 対格標識にトピック標識を後接することができるならば、目的語にトピック標識がついていても、それが動詞から 2 文節以上離れている場合、有標対格の =NcjaN=ja あるいは =Ncjaa=ja となることもできるはず
- ∴ 動詞直前以外において目的語がトピック標識を持つが対格標識を持たない 16 例を除外するべきではない
- このように、動詞直前以外の位置でも無標対格の目的語は存在するかという RQ1 に関しては、今回のコーパス分析ではそれが存在することがわかった

## RQ1 への回答: 動詞直前以外でも無標対格の目的語は存在する

- 日本語共通語では =wo=wa と、対格標識とトピック標識を組み合わせることができないのに対して、与論島方言では、菊 (2014) によれば、=(i)NcjaN(a) / =(i)Ncjaa にも、トピック標識=ja を付すこともでき、実際に『与論のしまがたり』のなかで、=NcjaN=ja と =Ncjaa=ja の例がそれぞれ 3 例と 2 例存在
- 対格標識にトピック標識を後接することができるならば、目的語にトピック標識がついていても、それが動詞から 2 文節以上離れている場合、有標対格の =NcjaN=ja あるいは =Ncjaa=ja となることもできるはず
- ∴ 動詞直前以外において目的語がトピック標識を持つが対格標識を持たない 16 例を除外するべきではない
- このように、動詞直前以外の位置でも無標対格の目的語は存在するかという RQ1 に関しては、今回のコーパス分析ではそれが存在することがわかった



## RQ1 への回答: 動詞直前以外でも無標対格の目的語は存在する

- 日本語共通語では =wo=wa と、対格標識とトピック標識を組み合わせることができないのに対して、与論島方言では、菊 (2014) によれば、=(i)NcjaN(a) / =(i)Ncjaa にも、トピック標識=ja を付すこともでき、実際に『与論のしまがたり』のなかで、=NcjaN=ja と =Ncjaa=ja の例がそれぞれ 3 例と 2 例存在
- 対格標識にトピック標識を後接することができるならば、目的語にトピック標識がついていても、それが動詞から 2 文節以上離れている場合、有標対格の =NcjaN=ja あるいは =Ncjaa=ja となることもできるはず
- ∴ 動詞直前以外において目的語がトピック標識を持つが対格標識を持たない 16 例を除外するべきではない
- このように、動詞直前以外の位置でも無標対格の目的語は存在するかという RQ1 に関しては、今回のコーパス分析ではそれが存在することがわかった

## RQ1 への回答: 動詞直前以外でも無標対格の目的語は存在する

- 日本語共通語では =wo=wa と、対格標識とトピック標識を組み合わせることができないのに対して、与論島方言では、菊 (2014) によれば、=(i)NcjaN(a) / =(i)Ncjaa にも、トピック標識=ja を付すこともでき、実際に『与論のしまがたり』のなかで、=NcjaN=ja と =Ncjaa=ja の例がそれぞれ 3 例と 2 例存在
- 対格標識にトピック標識を後接することができるならば、目的語にトピック標識がついていても、それが動詞から 2 文節以上離れている場合、有標対格の =NcjaN=ja あるいは =Ncjaa=ja となることもできるはず
- ∴ 動詞直前以外において目的語がトピック標識を持つが対格標識を持たない 16 例を除外するべきではない
- このように、動詞直前以外の位置でも無標対格の目的語は存在するかという RQ1 に関しては、今回のコーパス分析ではそれが存在することがわかった

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識ヤ、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識や、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識ヤ、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識ヤ、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識ヤ、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ

## 後の調査でわかったこと

- マーギー「全部」、ムール「全て」、主題標識ヤ、ン「も」、バツカイ「ばっかり」が目的語と動詞の間に入ると、ンチャンは省略可
- 数量詞ならば、そのあとにンチャンを入れてもよく、また、目的語のあとにンチャンを入れる例がある
- コーパスでは、マーギー「4例」、ムール「1例」、数量詞「1例」
- また、調査によって、前回トピック標識で数えていないものでも、実際はトピック標識がついて、母音融合が起きたことが分かった
- 先行研究の距離の規則にあてはまらないものは1例のみ



## 距離の規則に当てはまらない例

菊 (1985: 210)

- (4) ユカ ミンタマ、 ユン-パッティ-ラ-ラン-ガネー ムツチュ-ムヌ  
 良い 目玉 数える-尽くす-可能-否定-ほど 持っている-から

「良い目玉を数え尽くすことができないほど持っているから」

- こちらは、ユカ ミンタマのあとにポーズがあるということで、それがトピックになっており、このように、目的語がトピックになっている場合、ンチャンをつけなくても良い
- このことにより先行研究の距離の規則が今回取り上げたすべての例に対して当てはまることが分かった

## 距離の規則に当てはまらない例

菊 (1985: 210)

- (5) ユカ ミンタマ、 ユン-パッティ-ラ-ラン-ガネー ムツチュ-ムヌ  
 良い 目玉 数える-尽くす-可能-否定-ほど 持っている-から

「良い目玉を数え尽くすことができないほど持っているから」

- こちらは、ユカ ミンタマのあとにポーズがあるということで、それがトピックになっており、このように、目的語がトピックになっている場合、ンチャンをつけなくても良い
- このことにより先行研究の距離の規則が今回取り上げたすべての例に対して当てはまることが分かった

## 距離の規則に当てはまらない例

菊 (1985: 210)

- (6) ユカ ミンタマ、 ユン-パッティ-ラ-ラン-ガネー ムツチュ-ムヌ  
 良い 目玉 数える-尽くす-可能-否定-ほど 持っている-から

「良い目玉を数え尽くすことができないほど持っているから」

- こちらは、ユカ ミンタマのあとにポーズがあるということで、それがトピックになっており、このように、目的語がトピックになっている場合、ンチャンをつけなくても良い
- このことにより先行研究の距離の規則が今回取り上げた**すべての例に対して当てはまる**ことが分かった

## 距離の規則に当てはまらない例

菊 (1985: 210)

- (7) ユカ ミンタマ、 ユン-パッティ-ラ-ラン-ガネー ムツチュ-ムヌ  
 良い 目玉 数える-尽くす-可能-否定-ほど 持っている-から

「良い目玉を数え尽くすことができないほど持っているから」

- こちらは、ユカ ミンタマのあとにポーズがあるということで、それがトピックになっており、このように、目的語がトピックになっている場合、ンチャンをつけなくても良い
- このことにより先行研究の距離の規則が今回取り上げた**すべての例に対して当てはまる**ことが分かった

## RQ2 への回答：目的語の有生性と定性

### 目的語の有生性と定性と示差的目的語標示との関係の有無

- 表 (2) のように、目的語の有生性の有無と定性の有無は、目的語の対格の有標・無標の条件ではない
- しかし、目的語が無生・不定の場合、目的語の対格標示が無標であることがほとんどであることから、目的語が無生・不定である場合、対格が無標である傾向があるといえよう

	有生・定目的語	有生・不定目的語	無生・定目的語	無生・不定目的語
有標対格	37	2	19	5
無標対格	25	44	45	450

Table 2: 『与論のしまがたり』における対格の有標/無標と目的語の有生/無生・定/不定の関係

## RQ2 への回答：目的語の有生性と定性

### 目的語の有生性と定性と示差的目的語標示との関係の有無

- 表 (2) のように、目的語の有生性の有無と定性の有無は、目的語の対格の有標・無標の条件ではない
- しかし、目的語が無生・不定の場合、目的語の対格標示が無標であることがほとんどであることから、目的語が無生・不定である場合、対格が無標である傾向があるといえよう

	有生・定目的語	有生・不定目的語	無生・定目的語	無生・不定目的語
有標対格	37	2	19	5
無標対格	25	44	45	450

Table 2: 『与論のしまがたり』における対格の有標/無標と目的語の有生/無生・定/不定の関係

## RQ2 への回答：目的語の有生性と定性

### 目的語の有生性と定性と示差的目的語標示との関係の有無

- 表 (2) のように、目的語の有生性の有無と定性の有無は、目的語の対格の有標・無標の条件ではない
- しかし、目的語が無生・不定の場合、目的語の対格標示が無標であることがほとんどであることから、目的語が無生・不定である場合、対格が無標である傾向があるといえよう

	有生・定目的語	有生・不定目的語	無生・定目的語	無生・不定目的語
有標対格	37	2	19	5
無標対格	25	44	45	450

Table 2: 『与論のしまがたり』における対格の有標/無標と目的語の有生/無生・定/不定の関係

## RQ2 への回答：目的語の有生性と定性

### 目的語の有生性と定性と示差的目的語標示との関係の有無

- 表 (2) のように、目的語の有生性の有無と定性の有無は、目的語の対格の有標・無標の条件ではない
- しかし、目的語が無生・不定の場合、目的語の対格標示が無標であることがほとんどであることから、目的語が無生・不定である場合、対格が無標である傾向があるといえよう

	有生・定目的語	有生・不定目的語	無生・定目的語	無生・不定目的語
有標対格	37	2	19	5
無標対格	25	44	45	450

Table 2: 『与論のしまがたり』における対格の有標/無標と目的語の有生/無生・定/不定の関係



## このうち、目的語が動詞の直前の場合

動詞の直前に目的語	総数	このうち無生	このうち有生	このうち不定	このうち定
有標対格	36	8 (22%)	28 (78%)	4(11%)	32(89%)
無標対格	535	473(88%)	62(13%)	479(90%)	56(10%)

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## 調査でわかったこと

- 裸名詞+シュン「する」は通常複合動詞で、続けて発音される
- シュンが動詞の例 171
- 動詞の直前以外は5例・・・4つ有標対格、1つは無標対格（マーギーあり）
- 動詞の直前の割合 166 (94%)

有生で定	有生で不定	無生で定	無性で不定
3	9	3	151
2%	5%	2%	90%

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa]
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)



## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa]
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa]
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa]
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]」
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]」
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa」
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]」
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]」
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa」
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]」
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]」
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa」
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## RQ3 への回答: =(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の起源

- 北琉球諸語の様々な辞典および文法書において格助詞および副助詞で、与論島方言の =(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式が近く、機能も近いものを調査
- 結果、他の日琉諸語で、対応する対格標識は見つからなかったが、限定の「だけ」の意味をもつ助詞が形式的に与論島方言の対格標識に近く、対応語の有力な候補として浮上

### 北琉球諸語の体言につく限定の標識

- 沖永良部島和泊方言 (平山 1986: 853): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンチャ [ntʃa]」
- 沖永良部島知名方言 (平山 1986: 885): 範囲の限定の「だけ」を意味する「ンキヤー [Nkja:]」
- 沖縄本島今帰仁方言 (仲宗根 2011: 623): 「だけ、のみ」など「限定を表す副動詞」「ンチャー Ncaa」
- 沖縄本島漢那方言 (野原 1986: 245): 限定を表す「ンチャ」あるいは「ンチャー」
- 沖縄本島金武方言 (p.c. 玉元孝治): 「でも」を意味する「ンチャ」
- 『おもろさうし』ぎやめ (「まで」; p.c. 西岡敏; 巻 10, 512-3, 昔始まりや, 4 行目など多数)

## 新たに調査でわかったこと

- これらは、与論島方言の=(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式的に近く、名詞の後につけられるため統語論的な位置も同じ → 「限定 → 対格」という意味変化の説明が必須
- コンサルタントから調査中に教わったことだが、ンチャンは他の助詞と組み合わせることができ、その際は「強調」の意味になる

(8) 太郎=ヤ アリ=ンチャン=ガ マシエイチュンゲーラ ワカランヌ。  
 太郎=は あれ=ンチャン=が 良いと言うかも 知れない

「太郎はあれ（を）が良いと言うかも知れない。」(菊 2014: 175)



## 新たに調査でわかったこと

- これらは、与論島方言の=(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式的に近く、名詞の後につけられるため統語論的な位置も同じ → 「限定 → 対格」という意味変化の説明が必須
- コンサルタントから調査中に教わったことだが、ンチャンは他の助詞と組み合わせることができ、その際は「強調」の意味になる

(9) 太郎=ヤ アリ=ンチャン=ガ マシエイチュンゲーラ ワカランヌ。  
 太郎=は あれ=ンチャン=が 良いと言うかも 知れない

「太郎はあれ（を）が良いと言うかも知れない。」(菊 2014: 175)

## 新たに調査でわかったこと

- これらは、与論島方言の=(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式的に近く、名詞の後につけられるため統語論的な位置も同じ → 「限定 → 対格」という意味変化の説明が必須
- コンサルタントから調査中に教わったことだが、ンチャンは他の助詞と組み合わせることができ、その際は「**強調**」の意味になる

(10) 太郎=ヤ アリ=ンチャン=ガ マシエイチュンゲーラ ワカランヌ。  
 太郎=は あれ=ンチャン=が 良いと言うかも 知れない

「太郎はあれ（を）が良いと言うかも知れない。」（菊 2014: 175）

## 新たに調査でわかったこと

- これらは、与論島方言の=(i)Ncjan(a) / =(i)Ncjaa に形式的に近く、名詞の後につけられるため統語論的な位置も同じ → 「限定 → 対格」という意味変化の説明が必須
- コンサルタントから調査中に教わったことだが、ンチャンは他の助詞と組み合わせることができ、その際は「強調」の意味になる

- (11) 太郎=ヤ アリ=ンチャン=ガ マシエイチュンゲーラ ワカランヌ。  
 太郎=は あれ=ンチャン=が 良いと言うかも 知れない

「太郎はあれ（を）が良いと言うかも知れない。」（菊 2014: 175）

## 結論

---

## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性

## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性

## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性

## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性



## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性

## 結論

- 与論島方言は、周辺の諸方言のように有標主格・無標対格型ではなく、有標主格・有標対格型である
- 対格標識=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa は動詞の直前では省略可能であり、動詞の直前以外では義務的であると先行研究では説明されてきた
- しかし、本研究の『与論のしまがたり』(菊 1985)を用いたコーパス分析により、先行研究の記述とは異なり、動詞の直前以外でも目的語の対格標示が無標の例が複数例あることが確認された
- しかし、これらの例外もトピック標識の省略、数量詞の付加などで説明がつく
- そして、本コーパスでは、目的語が無生・不定である場合、対格標識が無標になる傾向にあることがわかった
- ほか、日琉諸語における=(i)NcjaN / =(i)Ncjaa の対応語は何かという RQ3 に関しては、沖永良部島や沖縄本島の諸方言の限定の「だけ」を意味する標識が有力候補であり、元は限定や強調の助詞だった可能性

## 参考文献

---

## 参考文献 1/3

- Aissen, Judith (2003). Differential Object Marking: Iconicity vs. Economy. *Natural Language & Linguistic Theory*. 21 (3): 435–483.
- Carlino, Salvatore. 2020. 『北琉球沖縄語伊平屋方言の文法』 博士論文 (一橋大学).
- Eberhard, David M., Gary F. Simons, and Charles D. Fennig (eds.). 2022. *Ethnologue: Languages of the World*. 25th ed. Dallas, Texas: SIL International. Online version: <http://www.ethnologue.com> (閲覧日 2022-10-10).
- Handschuh, Corinna. 2014. *A Typology of Marked-S Languages*. Berlin: Language Science Press.
- Owens, Jonathan. 1985. *A Grammar of Harar Oromo (Northeastern Ethiopia)*. Hamburg: Helmut Buske Verlag.
- Shimoji, Michinori. 2010. Ryukyuan Languages: An Introduction. In: Michinori Shimoji and Thomas Pellard (ed.), *An Introduction to Ryukyuan Languages*. 1–14. Fuchu (Tokyo): Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa.

## 参考文献 2/3

- Pellard, Thomas. 2015. The linguistic archeology of the Ryukyu Islands. In: Patrick Heinrich, Shinsho Miyara & Michinori Shimoji (eds.), *Handbook of the Ryukyuan Languages: History, Structure, and Use*. 13–37. Berlin & Boston: De Gruyter Mouton.
- Seraku, Tohru and Nana Tohyama. 2018. The Affective Construction in Yoron Ryukyuan. *Studies in Language*, 42: 418 – 454.
- Tohyama, Nana and Tohru Seraku. 2016. Towards a Description of the Case System of Yoron Ryukyuan: The Nominative Case Particles Ga/Nu and the Bare Case. *IJOS: International Journal of Okinawan Studies*, 7: 57–81.
- 菊千代. 1985. 『与論のしまがたり』 東京: はる書房.
- 菊千代・高橋俊三. 2005. 『与論方言辞典』 東京: 武蔵野書院.
- 菊秀史. 2014. 『与論の言葉で話そう (4) 形容詞, 助詞, 表現意図』 与論町 (鹿児島県): 与論民俗村.

## 参考文献 3/3

- 国立国語研究所. 2016. 「与論方言データ集」 木部暢子 (編) 『「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 与論方言・沖永良部方言調査報告書』 立川: 国立国語研究所.
- 重野 裕美. 2016. 「北琉球奄美大島龍郷町浦方言の格標識」 『広島経済大学研究論集』 39 (1・2): 81–92.
- 仲宗根政善. 2011. 『沖縄 今帰仁方言辞典』 東京: 角川書店.
- 野原三義. 1986. 『琉球方言助詞の研究』 東京: 武蔵野書院.
- 平山輝男 (編著). 1986. 『奄美方言基礎語彙の研究』 東京 : 角川書店.
- 町博光. 2016. 「与論方言の文法」 木部暢子 (編) 『「消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究」 与論方言・沖永良部方言調査報告書』 立川: 国立国語研究所.
- 山田實. 1995. 『与論島語辞典』 東京: おうふう.
- 横山晶子. 2017. 『琉球沖永良部島国頭方言の文法』 博士論文 (一橋大学).

## 謝辞

本研究は JSPS 科研費 21K18376 「フィールドデータのアーカイブに向けた問題点の整理と解決策」(代表研究者: 中川奈津子)、および、JSPS 科研費 19H01265 「多言語による日本語学用語辞典および日琉諸語の用例に対するグロス規範の作成」(研究代表者: ジスク・マシュー)、そして、国立国語研究所共同研究プロジェクト機関拠点型基幹研究 「開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究」のうち「消滅危機言語の保存研究」(研究代表者: 山田真寛)の助成を受けました。コンサルタントの菊秀史氏(与論民俗村)、本稿に有益な助言や意見をくださった、占部由子氏、風間 伸次郎氏、河内一博氏、黒木邦彦氏、齋藤浩子氏、佐々木冠氏、下地理則氏、玉元孝治氏、當山奈那氏、中川奈津子氏、西岡敏氏、林由華氏、松岡葵氏、山田昇平氏、吉田樹生氏(以上 50 音順)、Thomas Pellard 氏に感謝を表します。

とーとうがなし。ご清聴ありがとうございました。

宮川創(国立国語研究所・so-miyagawa@ninjal.ac.jp / <https://somiyaagawa.com/>)